

令和5年度自己評価表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現
			2 「人間性」の育成
			3 地域と連携した学校づくりと魅力化

		年 度 当 初				評 価 結 果 ()月		
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学力」＝ 「学ぶ力」の向上 と進路実現	学力の向上と学習習慣の 確立	・学校評価アンケート結果(12月)によると、生徒の基礎学力の向上感には90%に近づき、保護者については76%となっている。 ・1、2年生基礎力診断テスト(12月)において、D3ゾーンの生徒数が年度始めから33%減少に止まり目標数値は下回ったが、学年末考査の各教科の得点状況から改善の兆しが見られる。 ・学校評価アンケート結果(12月)によると「一人一人を大切にしたりわかりやすい授業が行われている」と回答した保護者の割合が76.3%と前年度(88.0%)を下回っている。 ・同アンケート結果によると「授業と教育環境のユニバーサルデザイン化を理解し、チェックリストを活用して、授業のねらいの明示、板書の仕方の工夫など授業改善に取り組んでいる」と回答した教職員の割合は68.7%と7月のアンケート実施時点より減少したが、これは生徒が授業に慣れた結果だと思われる。	・学校評価アンケートの「学力の向上感」に係る問いに対する肯定的な回答の割合が保護者・生徒ともに80%以上。 ・1、2年生基礎力診断テスト(12月)において、D3ゾーンの生徒数が年度始めから50%以上減少している。 ・学校評価アンケートの「一人一人を大切にしたりわかりやすい授業」に対する保護者の肯定的な回答の割合が80%以上。 ・「UDを意識した教育活動を展開している」教職員の割合が80%以上。	・各教科で新1年生の現状の学力を適切に把握した上で、今年の生徒の実施に合うリスタート学習の取り組みを全体で共有し徹底を図る。 ・基礎力診断テストをはじめとする各テストにおいて、自己採点やテスト直し等の事後学習を各教科で丁寧に指導する。 ・UDを意識した様々な学力層の生徒全員にとってわかりやすい授業を展開することで、学力層の底上げをはかる。 ・教科をまたいでの授業参観の機会をさらに増やし、全教員の授業改善の意識を高める。				
	生徒が主体的に取り組む 授業の工夫	・学校評価アンケート結果(12月)によると「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」と回答した生徒は83.9%と前年度(92.5%)を下回っている。 ・同アンケート結果によると「授業では、その時間のねらいがはっきりしており、先生が白板に書く内容もわかりやすい」と回答した生徒は89.4%と前年度(92.5%)をわずかに下回ったものの7月のアンケート実施時点(84.2%)よりも回復しておりよい兆しが見られる。	・学校評価アンケートの「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」に対する生徒の肯定的な回答の割合が90%以上。 ・「授業では、その時間のねらいがはっきりしており、先生が白板に書く内容もわかりやすい」に対する生徒の肯定的な回答の割合が90%以上。	・観点別評価を生かし、生徒に学習の振り返りを促すことで学習に対する意欲を向上させる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方を検証しつつ、「指導と評価の一体化」の観点からの学習指導の不断の点検を進める。				
	「自らの将来について主 体的に考える」キャリア 教育の推進	・学校評価アンケート結果(12月)によると、「本校教育方針を認識している」と回答した生徒は82.6%、「進路実現に向けて行動を起こしている」と回答した生徒は67.7%といずれも目標数値を下回っている状況にあるが、高い数字は維持している。 ・進路目標達成率は96%(1月20日現在)。このうち第1志望での合格内定率は94%であった。 ・地元の鳥取大学に1名、公立鳥取環境大学に2名、鳥取看護大学に1名合格した。	・進路学習が生徒の実情に応じた適切な時期に行われ、生徒が進路実現に向けて主体的に行動している。 ・「自分の進路実現に向け、資料を集めるなどをして、進路を考えている」生徒の割合が80%以上。 ・第1志望での進路決定率95%。	・進路行事のねらいを明確にし、3年間を通した進路学習の流れの再構築を行う。 ・担任面談と進路専任面談により生徒の進路志望状況を正確に把握し、情報を共有することできめ細やかな進路指導を行う。 ・探究的な学習との往還を通して、自己の在り方生き方を考え具体的に行動を起こす契機となるような抜本的な進路行事の精選・再編成を進める。				
2 「人間性」の 育成	学校教育活動を通した基 本的生活習慣とマナーの 確立	・学校評価アンケート(12月)の生徒の回答結果をみると、校則やマナーの厳守(94.4%)、挨拶や返事に関する意識(91.3%)は高く、保護者、教職員についても肯定的な回答が90%を超えている。	・頭髮服装指導において再検査を受けなければならない生徒が10%以下になっている。 ・挨拶、返事、頭髮服装等の基本的な生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が90%以上となっている。	・3年時に限らず進学・就職時の面接試験の場面を意識した進路指導(生徒指導)を行う。 ・生活指導において日常的な学年指導・教科指導と定期的な全校指導を充実させる。 ・指導部ノートを有効活用し、教職員の間での情報共有を進め、組織的な指導につなげる。 ・生徒、保護者に指導状況を丁寧に説明するとともに適時な連携による指導を徹底する。				
	部活動を振興し、健康で 心身のバランスのとれた 人間の育成	・部活動全員加入を原則としており、令和4年度1月時点で未加入者は0名である。今年は生徒数が増加し、各部活動とも活気のある練習ができています。 ・学校評価アンケート結果(12月)によると「部活動は社会人としての力を身につけるのにも役立っていると思う」と回答した生徒は87.6%と前年度(93.1%)を下回っているが、高い数字を維持している。	・全生徒が部活動に加入している状態が継続している。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。 ・「部活動は社会人としての力を身につけるのにも役立っていると思う」と回答する生徒の割合が90%以上。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をおとし、技術向上のみならず人間的な成長を支援する。 ・本校の実態及び将来像に即した部活動の精選を進める。				
	多様な生徒を理解し一人 ひとりの自己有用感の伸 長	・生活満足度調査の結果(10月)では、「学校が安心安全な場所である」と回答した生徒は54.9%であった。(5月比-8.5%) ・学校評価アンケート結果(12月)によると「学校外での使用時間が多くならないようにしている」と回答した生徒は66.5%と前年度(73.6%)を下回っているが、「携帯・スマートフォンのルール・マナーを守っている」生徒の割合は97.5%と非常に高い。	・学校が、生徒にとって安心で安全な場所になっている。 ・「学校が安心安全な場所である」と回答する生徒の割合が70%以上。 ・SNSの利用に係るマナーやモラルを守ることができている。 ・「携帯・スマートフォンの学校外での使用時間が多くならないようにしている」生徒の割合が75%以上。 ・周囲に配慮した言動ができるようになっていいる。 ・生徒一人ひとりが自己実現を目指し、あらゆる機会活動の中で生き生きと活動している。	・情報モラル講演会等を早期に実施するとともに、全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、SNSの危険性について啓発活動を徹底する。 ・生徒観察及びアセスメントを特別支援教育支援員と連携して実施し、必要に応じて個人面談や個別学習指導を実施する。 ・学年を中心としたケース会議の開催や保護者や関係機関との連携により、効果的な指導・支援につなげる。 ・「教育相談だより」の発行や面談を通した働きかけにより、生徒の自己理解・他者理解を深め、自己有用感を高めるためのヒントを伝える。				

様式3

			教育活動の中で生き生きと活動している。 ・岩美高版U Dを意識して効果的な指導・支援に取り組み教員の割合が80%以上。			
	類型制の発展等も含めた「岩美高校の在り方」構築	・学校からの情報発信強化により本校の特色や類型制の魅力等が中学校に十分に理解され、定員充足率が上昇した。 ・生徒の自主的な地域貢献活動や公営塾、部活動の取組等が全国紙、地方紙で記事に掲載され、本校教育活動の地域認知度が高まりつつある。	・各類型の学習内容の魅力が効果的に発信でき、積極的に地域との交流が図れている。 ・高校が地域の方に誇りを持ってもらえるような存在になっている。 ・地域コミュニティの拠点となっている。	・進路志望を意識した類型選択となるよう、各進路行事を構築する。 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を有効に活用し、具体的な地域学校協働活動に着手する。 ・「岩美高校あり方検討委員会」を継続するとともに、議論内容を教職員間で随時共有し、「中学生が行きとなる学校づくり」を実現するための具体策について検討する。		
3 地域と連携した学校づくりと魅力化	地域探究型学習（イワッツミッション）の発展・充実	・探究学習の拡充深化を目指す探究学習ワーキンググループが活動中で、具体的な内容を試行的に実施に移す段階にある。 ・学校評価アンケート結果(12月)によると「地域に貢献したい」と思う生徒の割合は80.7%と前年度（86.2%）を下回ったが高い数字を維持しており、生徒たちの地元愛を感じる。 ・2年生の探究型学習「イワッツミッション」の3月の成果発表の事後の継続的な活動が十分でなく、3年時での地域貢献意識の持続につながっていない。 ・同アンケートでは「地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力の育成に効果を上げている」と回答する教職員の割合は93.8%と前年度（78.8%）を上回り、さらに85%以上の目標も達成できた。	・ワーキンググループで出た意見を指導案として提示し、担当教員に具体的に示すことができている。 ・ワーキンググループ内で仕事を分担し、各学年でのクリエイティブな議論につながっている。 ・「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が90%以上。 ・「地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力の育成に効果を上げている」と回答する教職員の割合が90%以上。	・職員会議の後に探究学習学年別担当者打合会を持ち、担当者での意見交換を通して学習指導のプランを協議して作り上げる。 ・資料や意見をGoogleClassroomを活用して会議の場以外でも適宜共有し、プランのブラッシュアップを図る。 ・ICTを効果的に活用して、生徒の成果物を蓄積し、生徒が学びを振り返るしゅみを充実させる。 ・岩美高校魅力化コーディネーターの配置を地域資源の有効な活用による内容の深化・拡充につなげる。		
4 業務改善	校務分掌、任務分担の見直しと長時間勤務者の解消	・時間外業務時間の年間合計が360時間を超える教職員が令和5年1月末現在で4名、3月末では9名となっている。 ・分掌主任を中心に校務分掌再編後の任務分担の検証を行った。 ・業務改善のためのICTの活用が広がってきている。 ・部活動の計画段階で時間外の指導時間を点検し、教職員への意識づけを図るとともに、大会引率等による振替休日の積極的な取得を推進している。 ・衛生委員会での協議事項を必要に応じて教職員で共有し、業務改善についての自覚を促している。	・時間外業務時間の年間合計が360時間を超える教職員が令和6年1月末現在で4名以下となっている。 ・前年度はできなかった場面で業務改善のためのICTの活用がなされている。 ・会議を精選し、必要な情報共有のできる場と時間を創出する。	・部活動の計画と実働の一致を促すと同時に、遠征計画は2ヶ月前に立てるように計画性を持った指導を意識づける。 ・教科や分掌でICTの活用事例の共有を進める。 ・衛生委員会での協議を継続し、改善できるものについては関係部署と相談の上、職場環境を整える。		

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し

〔100%〕

〔80%程度〕

〔60%程度〕

〔40%程度〕

〔30%以下〕